

# 巨石文化地名

<参考文献：中根洋治著「愛知発巨石信仰」・「続 巨石信仰」>

イワクラ(磐座)学会理事 中根洋治

## 1) 巨石文化の種類

巨石文化といえ、人間1人の力ではとても動かせないような巨石を使った古墳や磐座、ストーンサークル、石垣・石塔などがある。なお石庭の原型は磐座であるという説があるが、ここでは最も古くからあって、地名と関わりのある巨石文化遺跡を対象とする。信仰に関わるものは、「巨石信仰」ともいい、日本は「神の国」といわれ、縄文時代からの、まだ宗派も各種神々のないころの磐を御神体としていた時代の話である。各種の神々は5世紀ころから生まれたのであろう。

我が国では、大きく分けて磐座(いわくら)・岩神・磐境(いわさか)の3種類とされる。これら巨石文化遺跡全体を広義の磐座と呼ぶ場合もある。

上記3種類を細分すると、磐座には岩壁・陽石・船岩なども含ま

れ、元々は天然の巖かな磐が主であったが、多少加工されたものや他所から運ばれたものもある。岩神の中には、雨乞い石・鏡岩・子宝石(夫婦石・男根石)・イボ岩など病氣退散を願うものもある。磐境は、環状列石(ストーンサークル)のように、その円形の内側は神聖な場所とされた遺跡である。また円形でなくても境を画する遺跡もある。

## 2) 巨石文化遺跡とは

まず、巨石文化遺跡の磐座とは、人が亡くなると魂は形のよい山にある巖かな磐から昇天するとされ、その磐をいう。また、その後33年目になると人は神となり、天からその磐座に舞い降りて元の家へ戻り、お勤めが終わるとまた同じコースを逆に辿り天に戻るとされた。現代でも「天に召された」とか「昇天された」といわれている。

## 3) 磐座の始まりと終わり

その説明は参考文献にあるが、始まりは縄文時代からあった。その証明は、例えば山梨県北杜市の金生(きんせい)遺跡(写真1)では、約4000年前の環状配石遺構の真ん中に陽石を立てている。



写真1 金生(きんせい)遺跡

このような男根形の磐を豊田市岩倉町の磐(写真2)のように磐座と



写真2 豊田市岩倉町の磐

た。

#### 4) 巨石文化遺跡の状況

巨石文化には天然の磐を信仰対象としたものが多い。京都市上賀茂神社奥の院の「神山（こうやま）」山頂近くの磐座。豊田市上高町の八幡社（写真3）、犬山の本宮山にある御社根磐、三河本宮山の国見岩、などなど。鳳来寺山や三重県熊野市の「花の窟（いわや）」は天然の岩壁を「神体」としている。

大きな岩なら何でも磐座というわけではない。磐座の条件は、

- 「イ」 前に神社や祠がある。
  - 「ロ」 神社名が石に関する名前であり、その境内にある岩。
  - 「ハ」 地名がイワクラとか石に関する所にある。
- などである。

#### (a) 人工的に作られた磐座

大分県真玉町猪群（いのむれ）山の天辺に「雨乞い遺跡」（環状列石）があり、その入り口に高さ4mほどの2つの石が立っているが、その石の推定重量は40トンほどである（写真4）。北麓の中宮と下宮は共に飯牟礼（いむれ）神社である。牟礼は神山を表す。

同じく大分県の宇佐神宮奥の院にある磐座は、高さ3m半ほどの巨石が3つ平面を北にして立っている。宇佐神宮はその約7km先の北麓にある。奈良県の三輪山にある多くの磐座（いわくら）の中の一組は、4個の磐の平らな面を西方に向けてある。明らかに人工的であり、これも山頂だから移動するためには大土木工事がなされている。三輪山の磐座は、三輪王朝の3〜4世紀のころ栄えたといわれる。

これらのように、人工的に運ばれ



写真3 豊田市上高町の八幡神社

して扱った事例は各地にあるからである。

仏教が伝わって、お寺ができるようになると、岩を拝んでは釣り合いが取れないので、一般的には岩の麓へ神社を造るようになって磐座は敬遠されるようになってしまった。概して8世紀頃から各地の磐座の麓に神社が建てられ

た磐は概して新しいといえよう。

#### 5) 巨石文化と地名

(a) 巨石文化とは



分県真玉町猪群山の雨乞い遺跡入り口（岩の高さ約4m）

これらは古代からの遺跡だが、こういった巨石の遺跡が地名になっているところも多い。例えば岩倉という地名だが、元は磐座のある地名ということである。愛知県内には23箇所ほどの「イワクラ」地名がある。

他にも岩屋・岩神・船石・立岩（写真②）・立石（メンヒル）・イボ・拾石・石神などがある。これらの地名の

ところには、ほとんどの所で今でも神聖な磐がある。

(b) 神体山の呼び名

奈良の三輪山は、古事記・日本書紀・万葉集などで「三室山（みむろやま）」とか「三諸山」（みむろやま）と表されている。

“神奈備の三室の山を秋行けば錦裁ち着る心地こそ

すれ”

古今和歌集紀貫之

“嵐吹く三室の山の紅葉は 龍田の川の錦なりけり”

百人集能因法師

手 “三諸の山見つつ行け我が背子がい立たせりけむ巖櫃（いつかし）が本” 額田王

三室の山は三輪山のことである。これは当時、神体山をミムロとかミモロと呼んでいたことを表す。ミワ山の元は御磐山（ミイワヤマ）という解釈もある。甘南備（カンナビ）山ともいう。東北地方では大森山という。新城市下吉田には大村山・大室山がそれぞれ大村神社と大室神社と共にある。大村山には巨石信仰がある。

また、山の名前も磐や信仰と関係することがある。本宮山・牟礼山・大森山・砥神山（蒲郡市）・甘南備山・三室山・岩倉山・飯盛山・



写真5 豊田市立岩の立岩、高さ約3m、前にも小型の立石



写真6 滋賀県三上山 (近江富士)

稲積山・村積山(岡崎市)・神石山・甲山(岡崎市、西宮市)・三上山(御神山、みかみやま、(写真6)・神野(ここの)山・衣笠山(写真7)・常光寺山・光明山・龍王山などである。こういう山は、神体山とか神山といわれる。



写真7 田原市の衣笠山、8合目に松尾立岩、麓に松尾神社、東から撮影

神奈川県の県名は、大山という県内各地から見られる神奈備山から名づけられたそうである。  
栃木県の「日光」は、一荒山(ふたらさん)≡男体山から名づけられたという。なお、二荒山のフタラは銅

の産地につく地名だそうである(佐藤光範氏)。

古墳に関する山名や地名もある。高座(たかくら)・大塚・蔵前などである。

**本官山**という山は、県内に犬山市と豊川市にある。犬山市の方は尾張二の宮で大懸(おおあがた)神社、豊川市の方は三河一宮で砥鹿神社が麓にある。

蒲郡市に「**砥神山**」(とがみやま)という山があるが、これは「トンガリ山」からきたといわれ、東北地方の東根市などに富神山(とがみやま)など3か所ほどある。

長野県飯田市下久堅に「**神の峰**」(かんのみね)という三角形の山がある。ここは最後まで武田軍の攻撃に抵抗した知久城があった。行ってみると鞍掛岩とか、矢立岩があり、本当に神の峰と思う。天竜川の東側一帯を「**竜東**」という。

岡崎市に「**村積山**」がある。三河富士ともいわれる三尊形式の神体

山である(写真8参照)。この山頂には村積神社と「毒石」という伝説の石がある。村積山のムラはムレからきたのであろう。ムレは韓国語の山という意味からきたといわれる。三尊形式の山は、写真9、10、11を参照。九州大分県宇佐市に稲積(いなずみ)山、瀬戸内海に積善山(つみぜんやま)があり、それぞれ磐座と神社や寺がある。よく考えると、「山ノ神」の総本家である瀬戸内海の大三島にある大山祇(おおやまずみ)神社の御祭神は、大山積ノ命であった。これらから「積」という言葉に、神との関わりが伺える。



写真-8 村積山（三河富士、岡崎市奥山田町）



写真9 三重県伊勢の外宮の裏山は三尊形式（JR伊勢市駅から）



写真10 田原市阿志神社裏山と芦ヶ池、阿志神社は旧渥美郡唯一の式内社



写真11 吉備の中山（岡山県）、左の山に吉備津彦神社、正面に吉備津神社

### (c) 岩倉市

愛知県岩倉市の場合は、弥生から古墳時代にかけてのころ、墳丘墓の上に5つ6つの立石があり、これをイワクラとっていたようである。大正時代に今の神社を建てるときに立石を社の両サイドに移動したので、今は本殿両脇に2く3本ずつ立っている。

### (d) 牟礼という所

香川県木田郡牟礼町という町名と、長野県上水内郡牟礼村があった。現在はそれぞれ、高松市と飯綱町に合併している。両方の町村の人達や、全国の128箇所「ムレ」地名を調べた「全国の地名ムレを歩く」という本の著者に聞いてもその謂れが分からなかった。各々、「五剣山」と「飯綱山」という際立った神体山があるからそんな地名になったのである。「五剣山」には四国霊場の「八栗寺」が、「飯綱山」は飯綱信仰の山で

ある。牟礼地区には殆んど今でも神体山がある。ムレは神体山である。

### (e) 紀伊半島の牟婁(むろ)郡

紀伊半島には、東西南北の牟婁郡がある。ムレとムロ・モロは神体山のことである。ムロには豪族が死んだ場合葬る場所があった、あるいは神様がその森に一時こもるといような意味もあるともいわれる。

和歌山県西牟婁郡であった田辺市の田辺湾の中の港を「室津(むろのつ)」、また白浜温泉のことを平安時代から「室の湯」といったが、これはムロ地方にある港とか温泉のことと思われる。ではこの地方の神体山はどれであろうか。旧西牟婁郡串本町の西北に「牟礼山」がある。もっと奥にもっと高い「大塔山」もあるが、東牟婁郡には古座川河口近くの南側に「重畳山(かさねやま)」という美形な山もある。なお、「古座(こざ)」という地名は「神座(こうざ)」

からきたそうである。古座川の源流は「大塔山」である。

では、三重県の南牟婁郡・北牟婁郡はどうなるのか。尾鷲市街の北側にそびえる「天狗倉山(てんぐらさん)」も神体山の候補になると思われる。「天狗倉山」は、紀勢線の列車の中からよく見える際立った山である。頂上に岩肌が見えるので行って見た

が、巨石の前に祠があり、正しく神体山の条件を備えている(写真12)。この山の西の肩を熊野古道の馬越峠が通っている。

江戸期の紀行文では、この山の名前を「テングラ岩」と呼んでいたそうである。

結局、紀伊半島の東西南北牟婁郡は、東西と南北とは別々の神体山ではないか。吉田東悟の地名解説では、東西南北の牟婁

郡の元は西牟婁郡であるという。西牟婁郡には前出の牟礼山や大塔山・大森山・岩倉山・衣笠山・竜神(りゅうぜん)山などがある。結局、大塔山が最も貫禄がある神体山と思われる。



写真12 尾鷲市の天狗倉山、山頂に磐がある

(e) 比叡山

滋賀県大津市に「日吉神社」があるが、昔は「ひえ神社」と呼ばれ、「日枝神社」と書いた。神社の奥の院である八王子山には「金大巖（こがねのおおくら）」という鏡岩（磐座）がある。その面は東を向いているので太陽光と関係ありそうだ（写真13）「ヒエ」は日映は原始時代からの太陽信仰のことで、比叡山の名前もこのヒエからきた。



写真13 大津市の日吉神社「金大巖」

(f) 甲山

岡崎市に「甲山」という山がある。市の中心部で、兜の頭のような形をしている。市民は“こうざん”とか“かぶとやま”とか呼んでいるが、元は神山↓こうやま↓甲山↓かぶとやま、と変化してきたようである。日本武尊が兜を埋めたところだ、という伝説もあるが、日本武尊自体架空の人だ。この山には“三つ石”といわれる有名な石があった。江戸期の絵図にも載っており、中世の滝山寺の領地は、三つ石まで含まれていた。現在、三つ石は石切丁場のために取り除かれたが、「字三つ石」の地名は残っている。兵庫県西宮市にも「甲山」という、お椀を伏せたような独立した山がある。南麓に「神呪（かんのう）寺」があり、もう少し南に伝説の石もあるといわれるが、私が訪ねたときは見つからなかった。この山も神山から変化した山名といわれる。全国に「こう山」は13箇所あり、

神山（かみやま）は8ヶ所あるという。

JR醒ヶ井駅の西側の山も「カブト山」である。この山は3つのお椀型山の総称である。この山頂に珍しいタコ足付きのような形状の環状列石の配置がある『続巨石信仰』。

奈良県山添村には神野（こうの）山、大分県山香町には甲尾（こうの）山、愛知県東栄町御園には神野（かんの）山がある。山添村の神野山はホウロクを伏せたような緩やかな山の形で、神山の系統になる。これ

らは神山とされていたのではないかと

大阪府交野市（かたのし）に交野山（こうのざん）がある。この山頂に写真14のような磐があり、その傍に岩倉開元寺跡があるので、この磐は磐座であることが分かる。磐座の東に祠もある。新聞記事で、この磐座の真北に長岡京が造られたという内容を見た記憶である。神野山（こうのやま）↓交野山（こうのざん）↓交野市（かたのし）に変化したように思われる。

高山と書いて、コウヤマといわれ

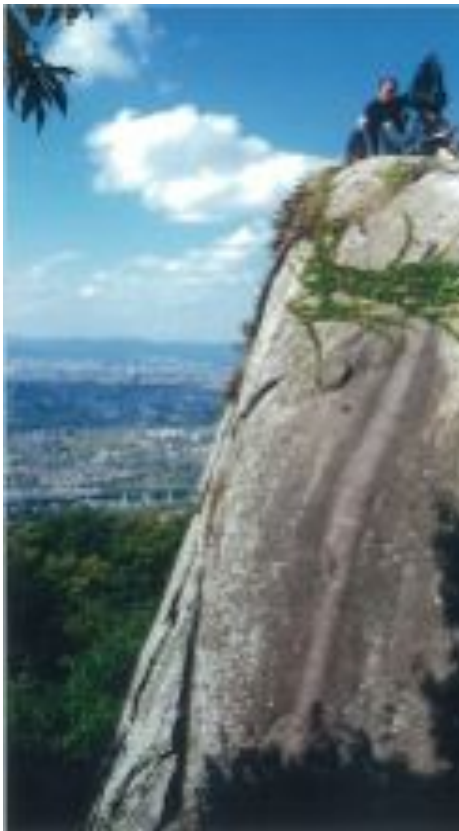


写真14 交野市交野山の磐

る山がある。例えば、岡山県飽浦山本の高山である。美濃国の一宮である南宮大社には、「高山社」が大きく祀られている。南宮大社は北方の国府近くから移転して来たが、高山社はずもともここにあって、高山とは現南宮大社の南にある「南宮山」のことであろう。高山と書いてもさして高い山ではなく、頂上から「経塚」が発掘されているので、神山（こやま）から変化したのではないか。

### (g) 舟と地名

豊田市御船（みふね）町は、舟形の石があることから名付いたようである。三河三の宮の猿投神社の奥の院は「お舟石」（写真15）であり、新城市日吉にある「船着山」に「くびら岩」という「舟つなぎ岩」がある。設楽町東納庫字船石には船の形をした石が、今はゴルフ場の中にあつて、鳥居も建っていた。矢作川の源流近くの旧上矢作町には、下流を向いた「船岩」があり、その上に祠



写真15 猿投山の「お舟石」

がある。大阪府交野市には「磐船神社」があつて、どちらかというとも船の形に見える高さ8mほどの巨岩がある。岐阜県本巣市（旧糸貫町）に「舟来山」と「船つなぎ岩」がある。以上の他にも船を崇める巨石文化が全国に多い。これは、渡海してきた神様とか、NHKの「日本人はるかな旅」にあるように、縄文時代のイ

ンドネシア付近の沈没した大陸からも一般の人達が日本へ来たといわれ、丸木船を削り上げる石器が、インドネシアと日本双方から出土しているそうである。このように命を預ける舟を極めて大切に扱ったのではないか。

### (h) 妙見信仰

妙見とは何であろうか。大分県国東半島真玉町の妙見神社の環状列石を調査に行った。初めて出会った「妙見」に、その後各地にあることに気づいた。中国伝来の道教に関わる「北辰信仰」であつた。北辰信仰は、海上から見れば北極星（及び北斗七星）が航海の目印であり、天体を重視した。そのことが推移して天皇中心の考えとなった。キトラ、高松塚古墳に描かれた四神や天体図もその影響であり、また陰陽道として庚申信仰・七草・日柄・易など現在の日本に多くの影響を及ぼした。兵庫県の能勢の妙見が有名である。仏教では

日蓮宗が受け継いだ。

### (i) シンメイさん

旧額田町片寄の天恩寺の東に「シンメイさん」と呼ばれる小さなお堂がある。その裏に大きな岩があつて、これが代表的な磐座である。

田原市白谷（しろや）にも「シンメイさん」と呼ばれる岩壁がある。

海を渡つて来た神様がここへ逗留したという。ここにも祠があり、田原市中の「田原神明社」の元はこのシンメイさんである。田原神明社の社務所に立派な説明書きが額縁に入っている。

これらの他にも「シンメイさん」があるが、元々は広く「天地神明」のシンメイさんであろう。一般には神明さんは天照大神を祀る神明社といわれている。

### (j) その他岩に関わる地名

岩倉市に「石仏」（いしぼとけ）という町名と駅がある。本当に石仏の



形に見える天然と見られる石が、真つ赤な衣を着て寺の中にある。衣は布ではなく、花崗岩の一部分の色である。寺伝によれば、洪水によって流されたものを、明応7(1497)年に掘り出して本尊とされた。石仏の地名には他にもある。

伊保町・揖保(いぼ)とか揖斐は、磐座に類する巖かな岩のある地名。兵庫県高砂市にある石宝殿は伊保町にある。

上記の他、旧藤岡町石畳、旧小原村大岩、旧足助町岩神、岩谷、旧下山村立岩、豊田市歌石、力石、岡崎市岩戸、石神など。それぞれの地区にある岩は地名になっている。この中、歌石は、風向きによって“歌を奏でる”そうである。

了